

# 相模湾のムギ・スルメ最前線 プラヅノ11センチが効果あり

相模湾の初夏の風物詩といえどムギ・スルメイカだ。釣り場の開拓や海況の変化などにより、季節を問わず釣れる釣り物も多くなっているが、このムギ・スルメイカだけはその呼び名のとおり、麦の穂が実るころから私たち釣り人を楽しませてくれる。

5月に入り真鶴・早川沖の浅場で釣れたムギイカだが、釣り場も東方面へ徐々に拡大。日ごとサイズも大きく

なり、相模湾東部でもニセイカサイズが釣れ始めた。

5月下旬、今回お世話になった船宿は腰越港の飯岡丸。

年間を通してヤリイカ、スルメイカ専門の看板を掲げているだけに、イカマニアからの支持も高い船宿だ。

私がムギ・スルメイカ釣りを覚えた40年前はナマリヅノで手釣りが主流だった。今では電動リールでの竿釣りが主流。大きくシヤクってイカを



▲今シーズンはスルメイカの群れが多く期待が持てそう

## 大流しで乗り乗り！

皆さんの仕掛けを拝見するとプラヅノ14センチの直結仕掛けが3名で、残りの人は11センチ、もしくは14センチのプラニコ仕掛けだ。

三浦船長に伺うと、「まだサイズもムギクラスが多く、アタリも小さいので慣れないと直結は難しいかも。サバが少なければプラニコのほうが確実だね。」

イカのサイズからツノは14センチがマッチするけど、ここ数日は11センチのほうが乗

## 知得！この船宿にこの人あり！

当日乗っていた仲乗りさんははつきり船宿のスタッフと思いきや、実は飯岡丸の常連さんで、お名前は本田さん。週末などの混雑時は竿を出さず仲乗り役に徹しているとのこと。偉ぶることもなく、口調も実にいい。常に船中に目を配りオマツリほどきはもちろん、沖干し作りまで何かあればすぐに飛んできて対処していただき、実に快適な一日を過ごすことができた。

当日乗船したイカ釣り初挑戦のビギナーさんにも手取り足取りレクチャー。そのおかげで彼も大健闘、10杯もの釣果に大喜び。こういう常連さん、まさに船宿の宝である。



▶初乗船し出れば仲乗り役の本田さんが釣り方を教えてくれます。

りがいいね」とのこと。6時半に出船となり、航程30分ほどのクルージングで秋谷沖の釣り場に到着。先着船の中にはすでに釣況のパロメーターともいえる沖干しを並べている船も。微速でリサーチしていた本船も急旋回。バックギアが入ったところで、「いいよ！ 底で86メートル。60〜80メートルに反応出てるよ」とのアナウンス。

「70メートル辺りが一番濃いかな。落とし込みでのアタリを見逃さないようにね」と続けてアドバイスが飛ぶ。「乗ったよ！」「おっ、きた！」

さっそく船内あちこちから乗り到来の声とともに電動リールの巻き上げ音が響きます。勢いよく潮鉄砲が吹き上がり、各席で赤銅色のイカが取り込まれる。サイズは胴長20センチ前後。ムギと呼ぶには少し大きく、スルメと呼ぶにも少し小さい。俗にいうニセイカと呼ばれるサイズだ。

単発ヒットが目立ったが、左ミヨシの藤井さんは3杯掛けスタート。右胴の間ではイカ釣り初挑戦の所さんが仲乗りのレクチャーを受けながら初イカをゲット。周りから祝福を受ける。すぐに回り直すと思いきや、「また反応出てきたよ。今度

は底回りだよ」と連投のアナウンス。

朝の1投目は何度も反応が入ってきて、20分ほどの大流し。手の早い人はすでに5〜6杯釣り上げている。

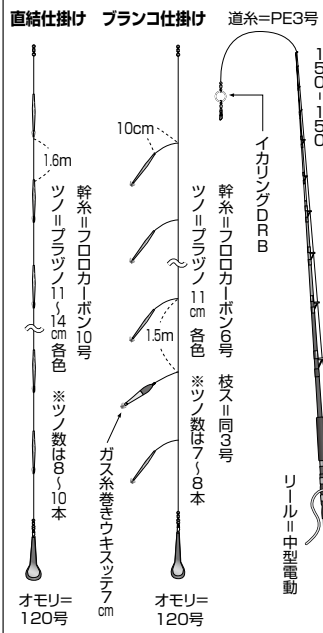
「今日はいい感じのスタートじゃないですか？」

「そうだね、ほとんどの人が顔見れたかな」と、幸先いいスタートに船長も安堵の表情を浮かべる。

ある程度の写真を撮めたとこころでも竿を握らせていた

プラヅノ14センチ8本の直結仕掛けでスタート。しかし、周りで「乗った」の聲が上がる中、なぜか私には触りの感触すらない。ほかの直結仕掛けの人も乗

## 当日のムギ・スルメイカ仕掛け



## Tackle Guide

直結、プラニコの選択はお好みだが、サバが少なければビギナーにはバラシがおすすめ。イカも日ごとにサイズアップしていくので、プラヅノも11、14、18センチまで幅広く用意しよう。

りは今イチのようで、プラヅノ11センチのプラニコ仕掛けによく乗っているようだ。そこで私も11センチのプラニコ仕掛けにチェンジ。60メートルからサミングしながら落とし込むと75メートルで道糸がフケた。リールのクラッチを入れ、グイッと竿をシヤクるとズンツと重みが乗り、グイグインツと竿が引き込まれる。手巻きでゆっくり10メートル

## 誘いは静かにゆっくり

日が高くなってくると、反応の動きも早くなり、空振りの流しも目立ってきた。

「難しくなってきたね」と船長は言うが、それでも反応の動きに間に合えば、乗った

## ▼プラニコ仕掛けもお忘れなく！



当日トップとなる36杯をゲット。次頭が15杯だったのでダントツの釣果といえよう(ちなみに私はムギ、ニセ、スルメ交じりで12杯でした)。

の声が上がると、船上が一気に盛り上がる。9時ごろの流しで左2番の峯尾さんと3番の井出さんが3杯掛けで取り込むシーンも。私も自席へ戻り、仕掛けを投入。タイミングよく反応が入ってきたようで、落とし込みで乗りをキヤッチ。ニセサイズを3杯掛けで取り込むことができた。

船先で直結仕掛けで狙う近藤さんは静かにシヤクリを入れてはゆっくりと巻き上げる誘い。イカが触る小さなアタリをとらえて掛け、着々と数を重ねていく。

圧巻は正午前の流し。流れるような取り込みで6杯掛けを披露し、ギャラリーたちを魅了する。

午後1時半に沖揚がり。「前半は全然ダメでしたが、ツノを11センチに替えてから拾えるようになりました」と近藤さん。

謙遜しながらも



▲落とし込みのアタリが分かれば楽しさ倍増

「西からイカがどんどん入ってきますから、これからはもっと数ものびる釣況になると思います。イカは日ごとに大きくなるので7月にもなればスルメサイズが主体になってくると思えますよ」と船長。夏に向けて大きく期待だ。

## 船宿 information

相模湾腰越港 飯岡丸 0467-31-1560 (詳細は巻末の情報欄参照)



三浦 徳人船長

▶料金=スルメイカ乗合一人1万円(氷付き)、女性2割引  
▶備考=予約乗合、6時半出船。釣り座は予約時に指定。カサコへも出船



●しいな よしのり/沖干しに皮付きのままのブツ切り刺身。初夏のイカってなんでこんなに甘くて柔らかいのだろう。